

■6月10日

PEACH(LCC)、成田空港へ就航、首都圏マーケット取り込みへ

(日経によると)

ピーチ・アビエーションは成田国際空港と関西国際空港を結ぶ路線に参入する。関空を拠点とする同社が首都圏の空港に乗り入れるのは初めて。今秋から1日2往復(4便)就航する方向で調整を進めている。首都圏の利用客が関空で乗り継ぎやすいようにし、手薄だった首都圏市場へ攻勢をかける。

ピーチは現在、関空を発着する国内6路線、海外3路線を運航している。首都圏に足場を持たなかったが、「首都圏の人が利用するケースが増えている」(幹部)。関空発着路線への乗り継ぎ便を運航することで、首都圏の乗客の利便性を高める。

(日経)6/9

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGF08010_Y3A600C1TJC000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGF08010_Y3A600C1TJC000/)

道、新千歳空港、深夜・早朝発着便アンケート、搭乗者の9割が利用を希望

道は、新千歳空港 (-> <http://www.hokkaido-np.co.jp/cont/popinsearch/?q=%E7%A9%BA%E6%B8%AF&r=reflink>) の深夜・早朝(午後10時～午前7時)発着枠の拡大に向け5月に実施した羽田—新千歳間の実証運航で、搭乗者の約9割が深夜・早朝便の利用を希望したとのアンケート結果をまとめた。新千歳の深夜・早朝発着枠は現在1日6回だが、道は今回の調査などを基に必要な枠数を見極め、秋以降に千歳、苫小牧両市に提案する。北海道新聞が報じた。

実証運航は5月3、5、6日、AIRDOの臨時便で実施。このうち、深夜・早朝便を使ってみたいと答えたのは羽田発便で計90・6%、新千歳発便では計83・6%に上った。

(北海道新聞)6/8

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/472303.html> (-> <http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/472303.html>)

旅行会社、アジアへの格安航空券、値下げの動き

旅行会社が販売するアジアの近隣諸国・地域に向かう格安航空券が値下がり傾向にある。7月上旬の成田空港発のチケットの最安値はソウル行きが前年比6割安く、台北行きも2割以上下がっている。この背景には、格安航空会社(LCC)の就航に伴う競争激化がある。

日経新聞によると、7月上旬発の成田発の格安チケットの往復価格は、ソウル行きが4500～9千円、台北行きが1万～1万4千円。最安値はソウル行きが前年比65%安く、台北行きも25%下がった。関西国際空港発は最安値でソウル行きが前年比1割、台北行きが4割下がった。

一方、香港など他のアジア向け路線の多くも下がっているが、成田発の北京、上海行きはチケット価格がともに2万円台で、前年同期より高いケースもある。

(日経)6/8

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDJ08005_Y3A600C1MM0000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDJ08005_Y3A600C1MM0000/)

沖縄、離島割引、利用者、前年比47.1%増、那覇—石垣線は7月10日から対象外

沖縄県のまとめによると、離島住民の割高な航空運賃を軽減する目的で県が2012年4月から新たに導入した離島住民等交通コスト負担軽減事業により、離島割引の利用者が前年度から大幅に増加したことが分かった。全対象航空路線の利用者は前年度比47・1%の増。特に、石垣—那覇、与那国—那覇間は前年度比162%増と最も大きな伸びを示し、利用者は2・6倍に増えた。八重山毎日が報じた。

同事業が導入により、新しい離島割引運賃は従来の離島割引運賃から4割引で、大人が普通運賃(片道)で石垣—那覇9400円、石垣—宮古4900円、与那国—那覇1万2900円、与那国—石垣が4900円に設定された。

県は12年度で航空路10路線に対し17億5364万円を出し、13年度は11路線で19億7005万円を予定。対象路線のうち石垣—那覇路線は7月10日以降、スカイマークの参入で運賃設定が競争状態となるため、事業の対象から除外される予定だ。

* 同事業は、離島住民が当日購入可能な運賃(チケット)が競争状態になく、県が設定する運賃水準(新幹線並み運賃)を上回っていないことを条件に、県が航空会社に負担金を支払うことで離島住民の航空運賃負担を軽減する仕組み。

(八重山毎日)6/9

<http://www.y-mainichi.co.jp/news/22630/> (-> <http://www.y-mainichi.co.jp/news/22630/>)

国交省、ベトナムとの航空当局間協議、羽田空港国際線3万回増便に伴う路線交渉

国土交通省は6月7日、日本とベトナムとの航空当局間協議が11日～13日に東京で開催されると発表した。今回は、2014年3月末からの羽田空港昼間時間帯における国際線3万回増便に伴い、両国間の路線設定に向けた交渉を行う。

両国は2011年6月の航空交渉で、2013年夏季スケジュールからの成田路線における二地点間輸送を自由化、首都圏を含むオープンスカイに合意した。同時に、羽田空港の深夜早朝時間帯に両国間で路線が設定できる枠組みを追加している。

(日刊航空)6/10

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

国交省、2012年度国内路線別データ、LCC参入路線、旅客数増加

国交省がまとめた2012年度の国内路線別データによると、本邦系LCCが参入した路線の旅客数は、いずれも前年度実績を大幅に上回っていることが分かった。

例えば、ピーチ・アビエーションが新規参入した関空—札幌線の旅客数は、前年同期と比べて1.5倍に拡大。関空—福岡線は3.8倍の旅客増となった。一方で、伊丹・神戸～札幌線や伊丹～福岡線は前年よりも減少した。

関西圏全体で札幌線では39.7万人増、福岡線は28.7万人増えた計算となる。これら増加分の多くが、ピーチによる新規需要創出の効果と見ることもできそうだ。また、ピーチ就航まで路線がなかった関西～鹿児島線も利用率8割と好調だ。

(日刊航空)6/10

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(国交省プレスリリース)6/3

http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku04_hh_000079.html (-> http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku04_hh_000079.html)